

中根政務官基調講演
-第8回日・S A A R Cエネルギー・シンポジウム-

本日、第8回日・S A A R Cエネルギー・シンポジウムが多くの関係者の参加を得て開催されることを嬉しく思います。日・S A A R Cエネルギー・シンポジウムは、2006年に始まり、エネルギー分野における日・S A A R C協力の方向性を定める上で有用な役割を担ってきました。今回はその集大成として、過去7回のシンポジウムにおける議論を総括し、「S A A R C地域エネルギー連結性のための中期ビジョン」として成果文書を取り纏める重要な会議となります。この文書は、後日、日本大使館を通じて、各加盟国ハイレベルにお示しいたします。

これまで日本は、電力分野におけるS A A R C各国との協力を積極的に進めてきました。各国の抱えている問題は実に多様です。発電に余力のある国、電力が不足している国、送配電ロスが深刻な国、環境に優しいエネルギーを必要とする国、電力セクターの制度改革が必要な国等状況は様々です。日本は、各国のニーズに適確に対応するために、テイラーメイドの支援を心がけています。

制度面については、昨年、パキスタンの電力セクターの改革支援を行いました。発電については、インド及びバングラデシュにおいて、日本の超臨界や超々臨界の技術を活用した石炭火力発電所建設が行われており、ネパールにおいては水力発電所の建設事業が実施されています。

送配電については、スリランカ及びブータン等の送配

電網の整備を行っています。クリーン・エネルギーについては、アフガニスタン及びモルディブにおいて太陽光発電の整備を行っています。

今回のシンポジウムで取り纏められる「中期ビジョン」も参考にしつつ、今後ともS A A R C域内のエネルギー連結性強化のために、J I C Aを始めとする日本の実施機関によって個別のプロジェクトを進めていきたいと考えています。将来的には、電力に余裕のある国から不足している国に融通する等、地域全体として問題の解決を図るメカニズムが出来ることを期待しています。日本としても、これまで二国間関係の文脈で行ってきた支援の点と点を繋ぎ「線」とし、更には線と線を結び、地域協力の「面」を描くといった新しい視点からの協力を行っていききたいと考えます。

現在、S A A R Cの地域協力を強化する上で絶好の機会が訪れています。昨年11月、3年振りとなる第18回S A A R Cサミットが開催され、カトマンズ宣言が採択されました。また、このサミットにおいて、第2回及び第3回日・S A A R Cエネルギー・シンポジウムにおいて提言された「S A A R Cエネルギー協力協定」への署名も行われました。S A A R C域内のエネルギー協力を進めるための基礎が作られたことは重要なステップです。今後は、加盟国において必要なメカニズムの整備を加速化する必要があります。

今年、S A A R Cは、設立30周年という記念の年でもあり、是非、このモメンタムを活用して頂きたいと思えます。S A A R C域内の人口は、16億人以上であり、

成長著しいASEANよりも大きな人口規模を有しています。ASEANや中央アジア、中国といった周辺地域にまで目を移せば、世界の人口の半分以上にもなる極めてダイナミックな世界が広がっています。この潜在性を最大に発揮するためには、全ての加盟国が同じ船に乗り、安定と発展という共通のゴールを目指す必要があります。そのために日本も積極的に協力していきたいと思っています。

今年、戦後70年の節目の年でもあります。日本は、戦後一貫してアジアと世界の平和と発展に貢献してきました。積極的平和主義の立場から、今後も世界の平和と繁栄に一層の貢献を果たしていきます。日本は、SAARCのオブザーバー国として、SAARCとの関係強化を図り、ウィン・ウィンのパートナーシップを構築していきたいと考えています。エネルギー分野の協力については、SAARC加盟国は元より、SAARC事務局及びSAARCエネルギー・センターとの協力を更に強化し、地域全体が裨益するような案件の形成に努めていきたいと思えます。日本は、SAARCの持つ可能性を顕在化させるための協力をコミットしています。本日のシンポジウムが日・SAARC協力の新たな一歩となれば幸いです。

有り難うございました。